

シックハウスに関する相談の状況等について

2013年5月28日

公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター

住宅リフォーム・紛争処理支援センターについて

- 「住宅品質確保法」「住宅瑕疵担保履行法」に基づき、住宅紛争処理支援センターとして国土交通大臣が指定
- 消費者の利益の保護や住宅紛争の迅速、適正な解決を図るため、住宅相談、住宅紛争処理への支援等の業務を行っている
- 財団業務の愛称を「住まいのダイヤル」としている



図1 住まいのダイヤルにおける相談の流れ

電話相談の受付状況

- 電話相談件数は、2005年度をピークにいったん減少したが、2008年度以降ふたたび増加

- 2011年度の相談件数は20,483件

このうち、新築住宅不具合等相談8,955件（43.7%）、リフォームに関する相談6,748件（32.9%）、知見相談4,042件（19.7%）などとなっている

※2012年度の相談件数は、20,584件（速報値）

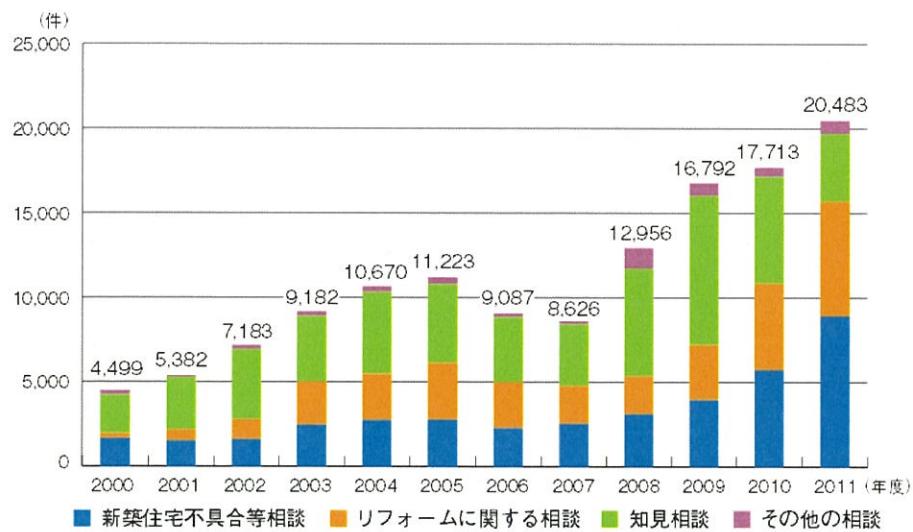


図2 新規電話相談件数の推移

シックハウス関連相談件数の推移

- シックハウス関連相談の件数、相談全体に占める割合ともに減少傾向

- 2010年度以降は横ばいで推移

※ここで言うシックハウス関連相談とは、医学的に確定診断されたものばかりでなく、相談者本人がシックハウスに言及しているものを含む。明確な身体被害のない相談も含むが、単純な問い合わせ等は除く。

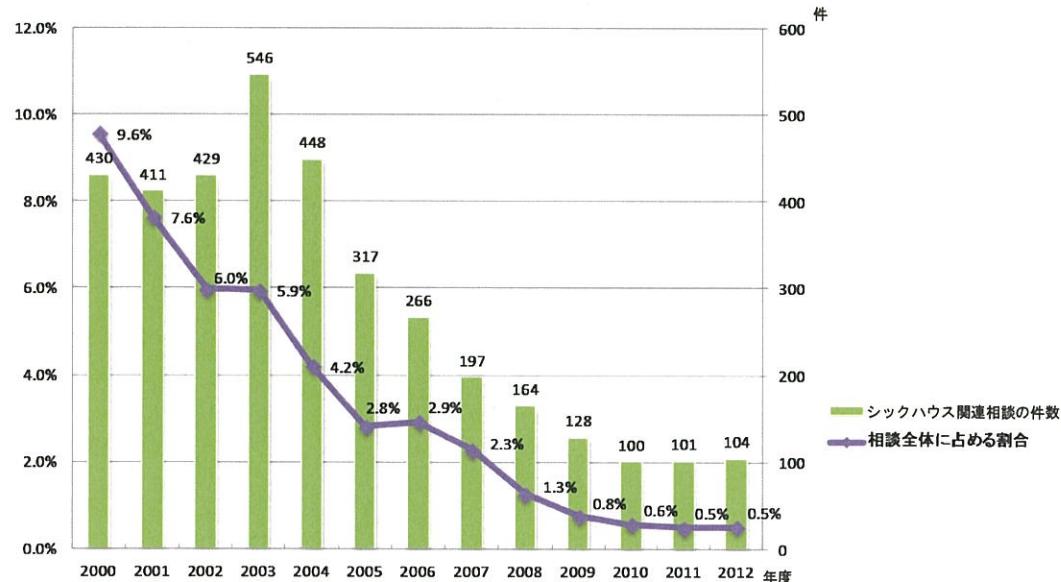


図3 シックハウス関連相談件数の推移

相談者の属性・性別

- シックハウス関連相談については、女性の割合が高く、年度とともに増加傾向
- 年代別では、50代の女性の割合が高い

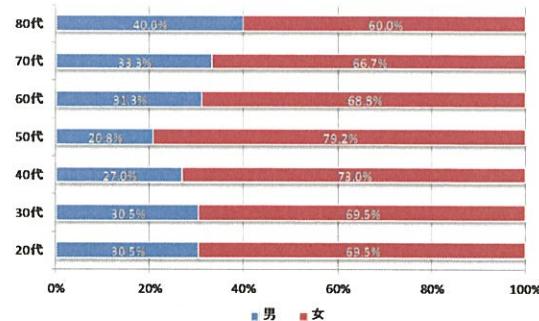


図5 相談者の年代別性別割合 2012年度
(相談者区分・消費者のみ集計)

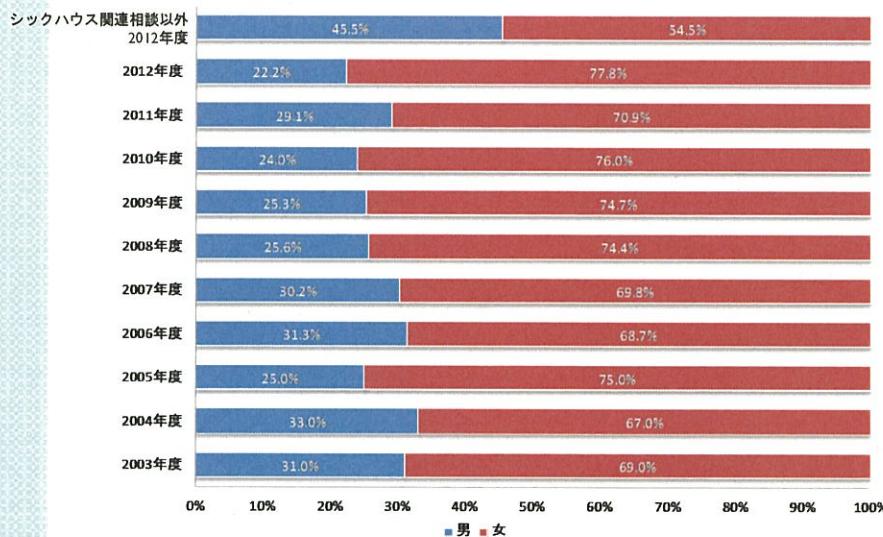


図4 相談者の性別と年度推移 (相談者区分・消費者のみ集計)

相談者の属性・年齢

- 相談者の年齢は、年度とともに高くなる傾向。シックハウス関連相談以外と比較すると、若干年齢層が高い

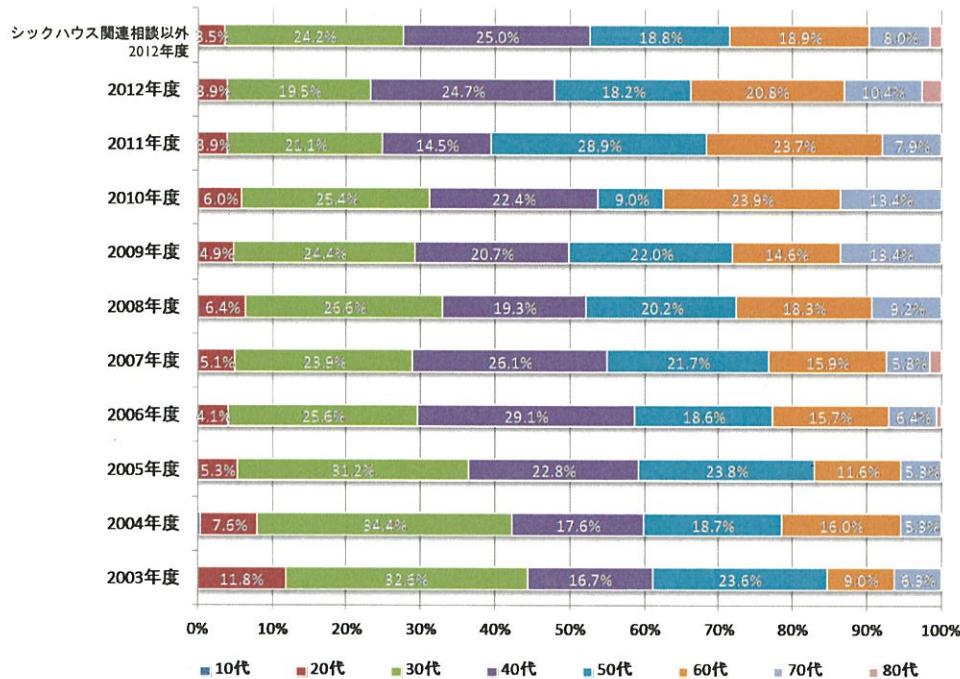


図6 相談者の年齢と年度推移 (相談者区分・消費者のみ集計)

相談の内容・シックハウス発現の契機

- シックハウス発現の契機を集計。2004年度と比べると、それぞれ件数は減少。

※相談者本人が症状ありと表現しているものを集計。医学的にシックハウスと確定診断されたものばかりではない。
※改修は主にリフォームだが、マンションの大規模修繕等も含む。
※寄せられた相談を集計したものであり、発生率を表すものではない。改修が多いからと言ってシックハウスが発生しやすいということではない。

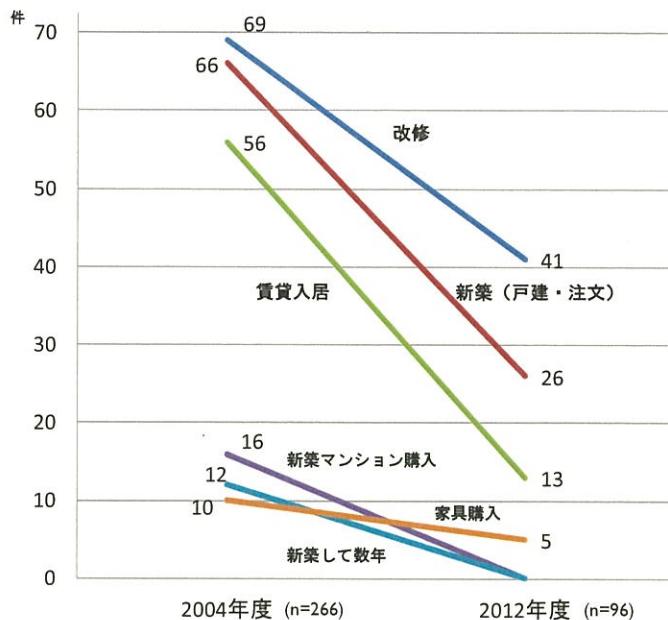


図7 受けた相談に見るシックハウス発現の契機（主なもの・件数）2004年度との比較

相談事例

●事例1 改修

中古マンションを購入し、居室をフローリングに貼り替える工事をしたところ、床鳴りが生じたので事業者がフローリングを剥がし、接着材により補修をした。

2日ほどたつと、頬がひりひりして目が開けられないくらいはれるという症状が現れた。専門病院を受診し、シックハウスと診断された。換気を励行したが、半年たつたいまでも2時間滞在すると顔に皮膚症状が出る。床材はF☆☆☆☆☆であることは確認しているがほかの物は分からない。

室内空気質を測定すると、ホルムアルデヒドは $50\mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度であり、他の物質とともに測定値はいずれも指針値以下であった。

相談事例

●事例2 新築

2011年夏に注文住宅の引き渡しを受け、シックハウス症候群となった。室内空気を測定すると、TVOCが $4,000\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。家具は使い慣れたものしか運びこんでいない。シックハウス専門の病院が近くにないが、一般の病院の診断書は取得した。

●事例3 新築+家具購入

2012年に木造3階建て建売住宅に入居した。当初鼻水が出て目が痒かったが気にしていたなかった。2か月後に食器棚を購入し、搬入したら30分でじんましんが現れ呼吸が苦しくなった。日ごとに症状がひどくなり食器棚を処分したが、それ以降、近所の塗装工事などで喘息、呼吸困難になり入院するほど悪化してしまった。

相談事例

●事例4 賃貸入居

2階建賃貸住宅に2012年、入居した。その後頭が痛くなったり気管支が痛くなり呼吸が苦しくなったりして、シックハウス症候群と思える症状が起きている。ところが、他の住人にその様な症状はなく、個人的な体質に起因するものとして対応してもらえない。